

〈大阪支部〉
**地域ボランティア「千里国際愛好会」
 の留学生交流の歩み**

【はじまり】

千里国際友好会は、旧（財）日本国際教育協会が運営する関西留学生会館（現在は、独）日本学生支援機構大阪第一国際交流会館）の開設とともに留学生との交流を目的とし設立された。

昭和四二年三月吹田市の千里ニュータウンで留学生会館が開設された当時は、まだ外国人が珍しく、言葉も通じないような状況であり、留学生に対して何か援助ができればと地元老人会により留学生の衣服の繕い物から奉仕活動を開始した。当時は、月一回の繕い物のほかに留学生の買い物補助、病気になった時の世話、ホームシック等の話し相手などを行いながら、会館生のために各種行事を開催し、活動を駆け今日に至っている。

【活動内容】

昭和四二年当初から実施した行事は繕い物のほかにホームビジット、クッキングランチョンがある。

ホームビジットは会館生を千里国際友好会会員宅へ招き、日本の家庭を垣間見る機会を提供した。しかし、留学生数の増加に伴い、会館周辺各市の国際交流協会が多彩なプログラムを実施するにつれ、このホームビジットと同様のものが実施されるようになり、平成九年に終了することとなった。

クッキングランチョンは、日本料理を会員が、留学生の国の料理を留学生が作り方を教え、習得してもらうことから始まったが、近年は興味を示す学生が減ってきたこともあり、今は休止している。

会館生の要望に応えた行事としては、「奈良への日帰りバスツアー（以下「バスツアー」と）日本語で話しましょう（以下「話しましょう）」がある。両行事とも大変好評であったが、バスツアーは、バス借上げ経費の捻出が困難となり、継続が難しくなった。

「話しましょう」は、大学や日本語学校で日本語を学習しても、ネイティブ日本人と話す機会が少ないことや日本人の友人ができていくという声があることから、これらの要望に応えるために開始された。新入館生の受け入れ時期は、大変多数の会館生が出席し、大盛況である。実施方法としては、学生用個別シートを作成し、対話者が替わっても前

回会話した内容をそのシートに書き記し毎回会話が重複しないような工夫をしている。しかしながら、試験等で多忙になることや、日本の生活に慣れるにつれ、出席者が減少する傾向にある。また、「話しましょう」はシニアボランティアが多く、留学生からは同年齢のボランティアと会話したいとの要望もあり、大学生のボランティアの加入は大変歓迎される場所である。

留学生数が増加してきた昭和六一年からは、渡日後すぐに学生が生活を始めることができるように会員の家庭で眠っている日用品や常夏の国から来日する学生のために冬服のバザーを会館ホールで行っている。

また、お茶会を催し、日本の伝統文化を体験してもらっている。近年は、お茶会時に着物の着付けを行っており、着物を着た写真を撮ったあとなかなか脱ごうとしない学生を次の人がせかしている様子などが見受けられる。

これらの催しに加えて、日本舞踊の師匠の協力を得て、



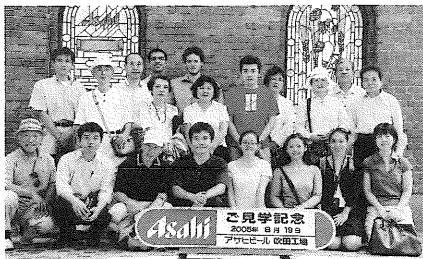
お茶会

夏休みに母国へ一時帰国できない会館生のために日本の夏の情景を楽しんでもらうよう盆踊りやスイカ割りを行い日本देशが味わえない経験を提供している。

【今後の活動】

今後の活動としては、活動の中心である「話しましょう」の参加者が昨今減少傾向にあるため、従来一対一の会話方式で行っていたものをグループ交流に重点を置き会話以外のゲームや遊びも取り入れるなどの工夫をこらし実施すると聞く。また、シニアボランティアが中心となって、近隣の企業、工場見学や自然散策など地域性を活かした交流が目指されている。

機構支部としても職員とボランティア会員が定期的にボランティア活動の中で遭遇した問題点や留学生受け入れ状況などの情報交換を行いながら、会館生が渡日後すみやかに日本の生活習慣に慣れ、勉強がスムーズに進むような手助けを、今後も継続されることを期待したい。



工場見学